



兵庫県立がんセンターと地域の医療関係者をつなぐ

かけはし



特集

乳腺外科「乳腺外科の稼働状況」

精神腫瘍科「精神腫瘍科のご案内

— がん医療における『こころのケア』を担う診療科 —

- 地域医療連携部
- 入退院支援センター
- ちょっと聞いてみませんか？ロビーセミナー
- がん相談支援センターをご利用ください
- 新病院の建築工事が本格化！いよいよ1階部分に着手！



乳腺外科の稼働状況

乳腺外科

部門長あいさつ

前回この『かけはし』で当科の紹介を行なったのは約2年前の2024年です。昨今、乳がん診療の進歩は目覚ましく、この2年の間にも有望な新薬が次々と登場し、新しい外科治療方法も日常診療に組み入れられ、乳癌の治療方針は以前と大きく変化しています。本稿では、当科の稼働状況と現在実施している原発性乳がんの治療方針をご紹介します。

稼働状況

2015年～2025年までの当科で実施した乳癌手術件数を図1に示します。2015年から2020年まで順調に手術件数は増加していましたが、それ以降は“コロナ禍”の影響で減少となりました。しかし、2024年からは“コロナ禍”も落ち着き、また手術枠も週6件 → 7件に増加した影響もあり、再び上昇に転じています。昨年（2025年）は287件と過去最大の手術件数を記録しました。その内訳ですが、乳房切除術217件（76%）、乳房温存手術64件（22%）件で、22件（8%）は同時乳房再建を実施しています（図2）。同時乳房再建手術も2024年より少しずつですが増えてきており、とくに広背筋皮弁を用いた再建術の増加が目立ちます。乳房再建手術は、整容性にこだわった手術であり、適応や方法は我々医療サイドが判断しますが、最終的に実施するかどうかは患者さんの意志に

よります。今後、さらに患者さんの要望をくみ取り、満足いただける乳癌手術を実施するように心がける所存です。

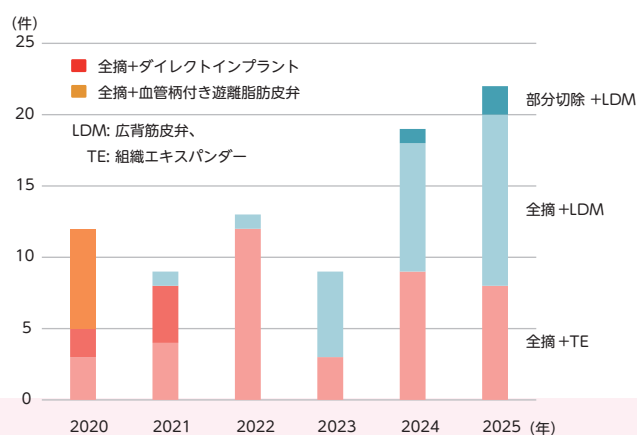


図2 乳房同時再建手術件数

原発性乳癌の治療方針

図3に当科での原発性乳癌に対する治療方針を示します。一般的には手術⇒術後（補助）療法を行います。Stage IIIなどの局所進行乳癌に対しては術前化学療法（NAC）を行い、腫瘍を縮小させてから手術を実施していました。しかし、薬物療法の進歩に伴い、NACの適応は徐々に拡大されStage IIBやIIA乳癌などに対しても実施されるようになりました。さらに、サブタイプによっては、NACによる生存率の改善も確認

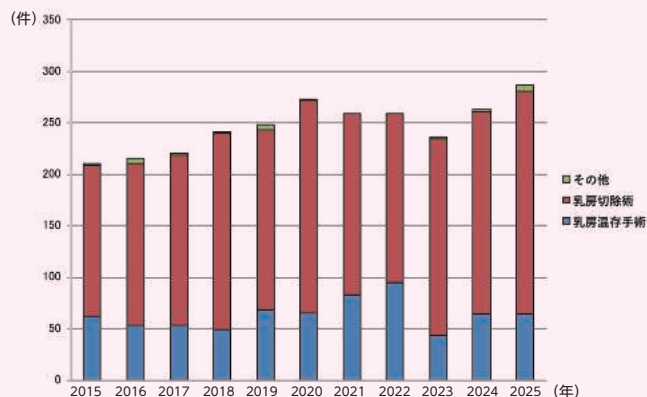
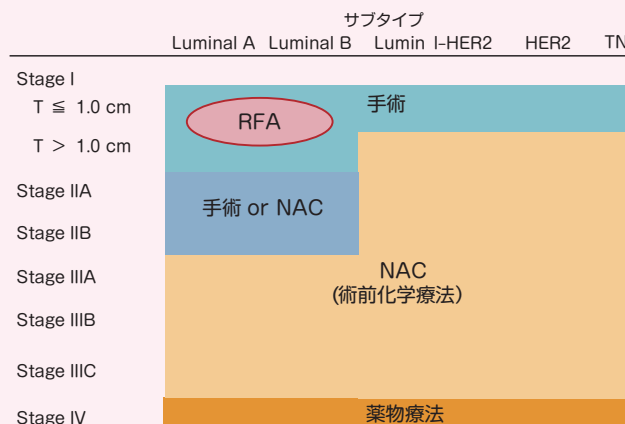


図1 原発性乳癌手術件数



TN: トリプルネガティブ乳癌
RFA: ラジオ波焼灼術

図3 原発性乳癌の治療方針



されるようになったため、一部のStage I症例にまで適応が拡大されるようになりました。当科では正確な診断（stagingやサブタイプ診断など）を行い、最適な治療方法の選択を心がけております。

ラジオ波焼灼術（RFA）

本治療は、細い針状の電極を病巣に刺してラジオ波帯の電流を流して熱を発生させて癌を焼灼する方法

・下図：ラジオ波焼灼術（RFA）のシエーマ

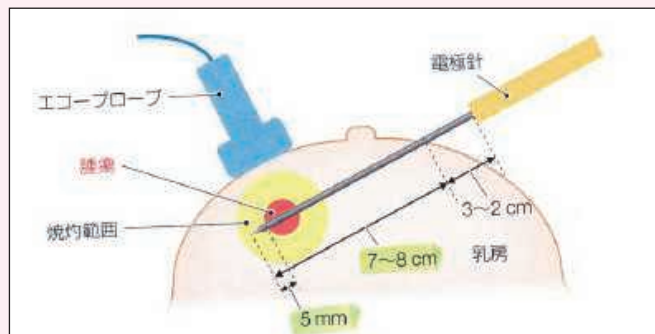


図4 ラジオ波焼灼術（RFA）：「乳癌ラジオ波焼灼療法アトラス 南山堂 第1版 2024年5月」より掲載

で、「切らない乳癌治療」と呼ばれているものです（図4）。乳癌に対して2023年末に保険収載され、2025年4月に当センターでも実施できる体制を整えました。適応は、全ての検査で1.5cm以下の単発限局性で、臨床上腋窩リンパ節転移を認めない早期乳癌が対象です。当院では、さらにルミナル乳癌を対象を限局しています（図3）。他にもいくつか条件はありますが、小さな乳癌で本治療法を希望される患者さんがいましたらご紹介頂けると幸いです。

最後に

当科は、現在実働スタッフ医師3名、専攻医2名です（長期にわたり欠員1名）。そのような状況下でも昨年は過去最高の稼働状況でした。これもひとえに各先生の頑張りと、病棟・外来・手術場看護師、クラーク、他科Dr、検査部門の技師の皆さん、また当科へ患者さんをご紹介して頂いたり、術後のフォローをお引き受け下さっている地域診療連携医の先生方のご協力の賜物と感謝しております。この場を持ちましてお礼を申し上げます。

精神腫瘍科のご案内

— がん医療における『こころのケア』を担う診療科 —

精神腫瘍科

はじめに

がん医療の進歩により、治療や療養の期間が長期化する中で、患者さんが抱える不安や抑うつ、心理的な苦痛への配慮は、日常診療において欠かせない要素となっています。当院精神腫瘍科（サイコオンコロジー）では、がん患者さんとそのご家族の「こころの側面」に専門的に関わり、身体的治療を支えることを目的とした診療を行っています。

精神腫瘍科（サイコオンコロジー）とは

精神腫瘍科は、がん患者さんやご家族が経験される心理的・精神的な問題を、がん医療の文脈の中で理解し、支援する専門領域です。一般的な精神科が統合失調症や気分障害など幅広い精神疾患を対象とするのに対し、当科では「がんと心の関係」に特化した診療を行っています。

がん患者さんの約半数には、適応障害、抑うつ、せん妄など何らかの精神症状がみられるとされており、これらは生活の質（QOL）の低下や治療の継続にも影響を及ぼします。当科では、がん治療や身体状態、予後認識、家族背景などを踏まえた精神科的評価と治療を通じて、患者さんが安心して治療に向き合えるよう支援しています。

当科の診療体制

当院精神腫瘍科は、現在、精神科医1名体制（心理士不在）で診療を行っています。

外来診療：「精神腫瘍科」として、通院中のがん患者さんやご家族の診察を行います。

入院診療：「緩和ケアチーム」の一員として、多職種と連携しながらチーム介入を行っています。

限られた体制ではありますが、診療科横断的な連携を大切にし、院内全体で患者さんを支えることを重視しています。

対象となる方・ご紹介について

対象となる方：

- ① 原則として当院でがん治療を受けている方を対象としております。
- ② 当院でがん治療中の患者様のご家族（*）
- ③ 当院で大切な方を亡くされたご遺族（*）

診療情報提供のお願い：

既に地域の精神科・心療内科に通院中の方は、これまでの経緯と治療の一貫性を保つため、診療情報提供書を添えてご紹介いただけますと助かります。

（*）診療情報提供書をお持ちでない場合は初診時に選定療養費（7000円）がかかります。

自殺予防に関するご案内

— 日常診療の「気づき」を共有するために —

がん患者さんの自殺リスクは、一般人口と比べて高いことが知られており、特に診断直後や再発時、病状の急変時などが精神的負担が大きくなりやすい時期とされています。一方で、医療従事者が自殺予防について体系的に学ぶ機会はずしも多くないのが現状です。

また、自殺を選択される直前の患者さんは、精神科ではなく、眠れない・体がだるいといった身体的不調を理由にかけつけ医を受診されることが多いという知見もあります。当科では自殺予防にも注力しており、当院でがん治療中の患者さんが先生方のクリニックを受診された際、以下のような兆候にお気づきになりましたら、ご無理のない範囲で当科へ連携・ご相談いただけますと幸いです。

- 「眠れない」「食欲がない」といった訴えが強く、生活に支障が出ている
- 絶望感や自責感が強く、治療への意欲を失っているように見える

緩和ケア センター



- がんの診断や再発の直後で、著しく精神状態が不安定である

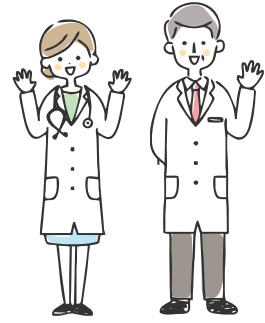
当科では、医療従事者の皆さまを対象とした自殺予防に関する情報提供やミニレクチャー等の機会についても、必要に応じて対応しています。ご関心がございましたら、お気軽にお声がけください。

おわりに

精神腫瘍科は、目に見えにくい「こころの苦痛」を扱う診療科です。院内外の皆さまと連携しながら、患者さんをご家族が安心して治療・療養に向き合えるよう、今後も支援を続けてまいります。どうぞお気軽にご相談ください。



地域医療連携部



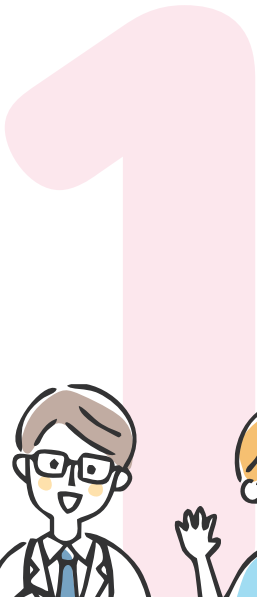
地域医療機関

令和7年度の地域連携室の主な取り組みをご紹介します。

1 敷居を下げより身近ながんセンターへ

かねてよりがんセンターには「敷居が高く紹介しづらい」「確定診断がないと受け取ってもらえない」「診療範囲が分かりにくく紹介しづらい」等のご意見がありました。

地域連携室では本年度、敷居を下げ、気軽に相談できるより身近ながんセンターを目指して医師・看護師・事務職員が医療機関訪問を積極的に行い、直接お話できる機会を多く持ちました。下のようなチラシをお配りし、「がん」の確定診断前の疑い症例の受け入れや新病院建設の状況などもお話させていただきました。課題はまだありますが、安心して任せることができる地域医療連携室を目指して参ります。お気づきの点がございましたら遠慮なく地域医療連携室までご連絡ください。

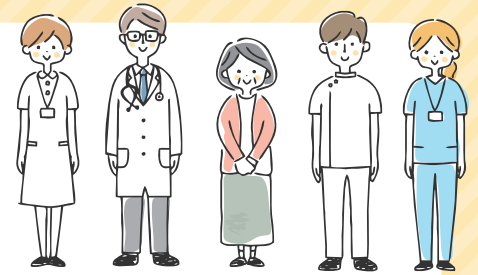


県立がんセンターにご紹介いただく各科の目安

診療科	ご紹介の目安
消化器外科	進行した消化管がん、肝癌、胆のうがん、膵がんやその疑い 閉塞性黄疸、腸閉塞（腫瘍性を疑うもの）
消化器内科	胃がん検診で要精査、便潜血陽性、CEA高値、CA19-9高値 大腸ポリープ、早期消化管がん、胆肝腫瘍、肺のう胞(IPMN)
呼吸器外科	胸部レントゲン検診異常、CTで肺がんや肺転移疑い
呼吸器内科	胸部画像（レントゲンやCT）で肺がんや縦隔腫瘍疑い 肺結核が疑われる場合は他院を検討ください
婦人科	婦人科がんやその疑い（細胞診の異常や、筋腫か肉腫か迷う症例もOK） 卵巣腫瘍もしくはその疑い（良性と迷うものもOK） 持続絨毛症で化学療法が必要な症例
腫瘍内科	腫瘍マーカー上昇（ただし、PSA、AFP、PIVKA-IIは除く） 原発不明の転移性腫瘍（組織診前、内視鏡やCT精査前でもOK）
頭頸部外科	頭頸部がん、甲状腺腫瘍やその疑い（生検がなくともOK） 頸部腫瘍・リンパ節腫脹（原発が不明でもOK） 口腔・咽頭・喉頭の表在がんもしくはその疑い
脳神経外科	CTで脳腫瘍疑い、いつもと違う頭痛や症状
歯科口腔外科	口腔悪性腫瘍または疑い（前がん病変など診断だけでもOK） 嚢胞、埋伏歯抜歯、良性腫瘍 炎症性疾患（歯性感染症、骨髄炎、薬剤関連顎骨壊死） 有病者の抜歯など外科治療
整形外科	骨・軟部腫瘍やその疑い（MRIでの疑い例、生検なしでもOK） 良性（皮下の小さい腫瘍など）、骨転移もOK
皮膚科	皮膚・皮下腫瘍（疑い例もOK、小児も可能な場合は対応） 良性皮膚病変の切除希望（手術待ちは2-3か月あります）
泌尿器科	PSA高値、エコーやCTなどで泌尿器科悪性腫瘍疑い
血液内科	造血器悪性疾患を疑わせる血球減少・血球増加・リンパ節腫大、Mタンパク血症
乳腺外科	乳がんやその疑い（可能なら乳腺科クリニックの先行診察希望）
放射線治療科	緩和照射希望（骨・脳・その他転移や再発が対象、緩和科での入院もOK）、乳がん術後照射、前立腺がん根治照射・術後再発照射
腫瘍循環器科	心血管病合併（抗がん剤治療後、胸部照射歴あり → 心血管フォローアップ外来を予約下さい（他院でがん治療された方もOK）
形成外科	乳がん術後で再建希望（他院術後もOK） 術後の瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイドの加療希望（他院術後もOK）

兵庫県立がんセンター 紹介用直通 TEL.078-929-1155 FAX.078-926-5410（予約申込用）

2 クリニック・診療所を対象としたインターネット予約の導入



初診患者の予約につきまして、「返信の待ち時間がある」「土曜日に予約できない」などのご不便がありました。令和7年9月より初診のWEB予約システムを導入し、現在約100施設のクリニック・診療所が登録しています。右のように予約の空き状況を確認し、土日でも予約取得が可能です、すぐに患者さんに予約票が渡せます。入力項目もごくわずかで、好評をいただいております。ご希望の先生がおられましたら地域医療連携室までご連絡下さい。



3 多職種が参加できる地域連携交流会の開催

令和7年度8月「身寄りのない人を地域で支えるために」をテーマに、12月「ACPだれのため?何のため?」をテーマに、事例を振り返りながら在宅医や訪問看護師、ケアマネージャー、病院の担当医、看護師で意見を交換する地域交流会を開催しました。ともに100名近くご参加いただき、それぞれの職種の立場から貴重な意見を伺うことができ、大変実りある会となりました。引き続き、このような交流会へのご参加をよろしくお願いいたします。



入退院支援センターについて

入退院支援センターは、入院治療の準備を通して栄養状態や服薬の状況、生活面や介護サービスの導入状況などの情報収集や調整を行っています。得られた情報は看護師間での連携はもちろん、栄養士、緩和ケアチーム、就労支援チームなど、関係する専門職と共有します。また、退院後の生活を見据えて在宅ケアや介護サービスの導入や調整を行います。また令和9年度末に控える新病院における「患者サポートセンター」の一部として機能できるよう体制を整備しています。患者サポートセンターは、治療前から治療中、治療後まで多部門、多職種が専門性をもった医療チームが連携、協働しサポートする体制を目指しています。入退院支援センターはその入り口の部門となります。周術期支援センターや薬剤鑑定、栄養士面談など効率的なサポートを目指して、他施設を見学するなど新病院のフローについて検討しています。



ちょっと聞いてみませんか？ロビーセミナー

毎月1回、患者さんご家族向けに、療養生活に役立つ情報を発信するロビーセミナーを行っています。

予約は必要ありませんので、お気軽にご参加ください。

場所 1階 正面入り口すぐのロビー

時間 15時30分～15時45分

今後の予定は、がん相談支援センター公式LINEにてお知らせいたします。



がん相談
支援センター
公式LINE



過去のロビーセミナー動画は、

兵庫県立がんセンター公式YouTubeからご視聴頂けます！

「がん薬物療法の下痢と便秘に役立つケア」

「乳がんの診断と治療について」

「最新のがんゲノム医療」等 **今後も随時公開予定**



がん相談支援センターをご利用ください

がんセンターをすでに受診されている方は勿論、受診されていない方、患者さんご家族、一般市民の皆さま、医療関係者の方々など、どなたでもご利用いただける窓口として、「がん相談支援センター」を設置しています。

がんの治療、療養生活や仕事のことなど、ご心配や悩み、疑問があれば、まずはご相談ください。

相談日時 月～金(休日を除く) 9時～17時

相談方法 面談、電話(予約優先) ※匿名の相談可

相談料 無料 (原則、1時間以内)

予約方法 電話(078-929-2967)又は、直接受付で予約をお取りください



がん相談専門員(看護師)が対応します

新病院の建築工事が本格化！いよいよ1階部分に着手！

基礎工事が順調に進み、年明けからは1階部分の施工が始まりました。

院内では現在、新しいがんセンターの開院に向け、医療機器の配置や患者さんの動線、スタッフの働きやすさを考慮した運用面の検討を進めています。

本年も、地域の皆さまに信頼いただける病院づくりを目指して取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



令和6年3月撮影



令和8年2月撮影

進捗率：30% 令和8年2月末時点



都道府県がん診療連携拠点病院

兵庫県立がんセンター

〒673-8558 兵庫県明石市北王子町 13-70

電話：078-929-1151 FAX：078-929-2380

ホームページ <https://hyogo-cc.jp/>

兵庫県がん

検索

